

エコアクション21 環境経営レポート

— 2021年度版(第11版) —
(2021年6月～2022年5月)



2022年10月31日 発行

野坂建設株式会社

はじめに (この1年の取組を振り返って)

- 2021年も新型コロナウイルス感染症は引続き私たちの事業活動に大きく影響をもたらしました。また、今年2月にはロシアがウクライナに侵攻し、資材や燃料調達に少なからず影響が出ました。これまでは、企業の外部要因としては国内事情を踏まえることが主でしたが、このような世界の微妙なバランス崩壊も、今後私達の企業経営の外部要因としてとらえていかなければいけないと実感した一年となりました。いかに内部環境を整えて、今後私達の企業経営の外部要因としてとらえていかなければいけないと実感した一年となりました。強い組織を作っていかなければいけないと感じています。
- 2021年度(49期)は環境事業部において、近隣の同業者の廃業に伴う受入れ増、また建設事業部においては大型案件の受注により、過去最高の売上高を更新できました。また採用においては、会社の理念やビジョンに共感してくれる社員が4名入社してくれたことは、環境経営を推進し、次世代に向けた取り組みの成果だと感じています。
- このような外部環境の影響は、デメリットだけではなくメリットも出てきています。以前は実行が難しいと思われた社員のリモートワークも定着しつつありますし、DXへ取り組む優先順位が上がりました。設備投資についても、売上増や固定費の削減だけでなく環境負荷削減の観点からの提案も増えてきています。環境問題を自分事化する意識が向上してきていると思います。
- 各部門の5月末に承認した事業計画についても、一年間をしっかりと振り返り、我社の付加価値を上げていく為の計画立案になっています。今後は免責の無いマネジメントを進め、全社一丸となって目標達成をして成果を分かち合いたいと思います。

目 次

はじめに(この1年の取組を振り返って)

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲	5
3. 環境経営方針	6
4. 環境経営目標	7
5. 環境経営計画	8
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	9
(1) エコアクション21実施体制	9
(2) 2021年度に実施した環境への取組	10
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組 結果とその評価、並びに次年度の計画	13
(1) 環境経営目標の実績	13
(2) 環境経営計画の取組結果とその評価	14
(3) 次年度の環境経営目標、環境経営計画	16
8. 環境関連法規の遵守状況・違反と訴訟等の有無	18
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	19

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

野坂建設株式会社

代表取締役社長 野坂 輝和

(2) 所在地

本社 〒808-0144 福岡県北九州市若松区高須東三丁目6番9号

水巻支店 〒807-0031 福岡県遠賀郡水巻町杵2丁目1番13号

ゆめ環境 〒811-4342 福岡県遠賀郡遠賀町大字尾崎1712-45

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA21責任者： 経営推進室 川元 恭子

EA21事務局： 環境部 原 浩司

(4) 連絡先

連絡担当者： 川元 恭子

T E L： 093-701-5216

F A X： 093-701-5266

E-mail： nosaka1@cronos.ocn.ne.jp

(5) 事業活動の内容

土木工事業 とび・土工工事業 舗装工事業 水道施設工事業
解体工事業 建築工事業 産業廃棄物・一般廃棄物処理業(中間処理)
土壌改良材生産・販売(現在は、生産・販売休止中)

URL： <http://www.nosakakensetsu.co.jp>

(6) 法人設立年月日

1973年 4月 2日

(7) 資本金

4,000万円

(8) 事業規模

単位:百万円(税抜)

項 目	単 位	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
売上高	百万円	227	352	295	345	274	250	404
従業員数	人	12	14	15	15	16	16	18

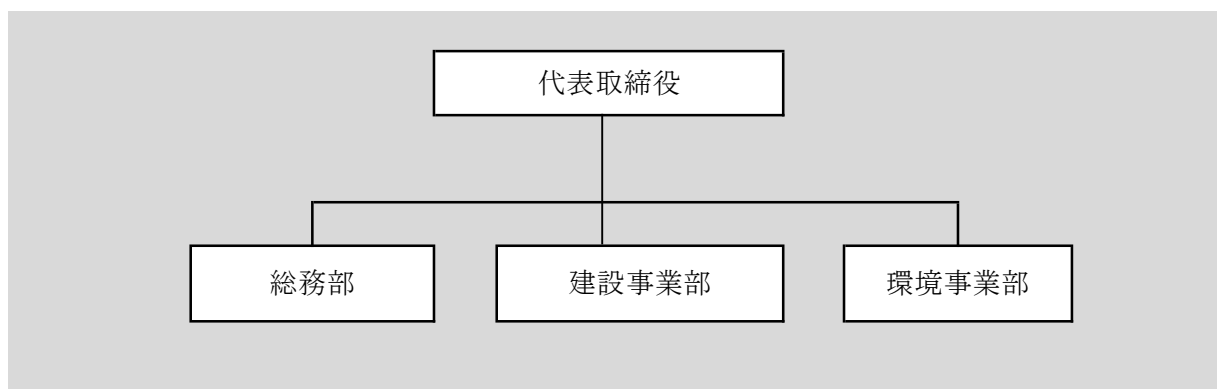
注)事業年度 6月～翌年5月

— 2021年度 — <受託した廃棄物の処理量>

処理方法等	廃棄物等 種 類	処分方法等	2018年度 処理量 (t)	2019年度 処理量 (t)	2020年度 処理量 (t)	2021年度 処理量 (t)	
収集運搬	(木くず)		0.0	0.0	2.99	67.01	
	(小枝・樹木)		0.0	0.0	0.0	0.0	
	(根株)		0.0	0.0	0.0	0.0	
収集運搬量合計			0.0	0.0	2.99	67.01	
※1 中間処理	(木くず)	(破碎)	1,855	2,391	2,809	2,861	
	(草・小枝)	(破碎)	3,759	3,810	4,762	5,296	
	(樹木)	(破碎)	434	469	718	560	
	(竹)	(破碎)	156	320	265	213	
	(根株)	(破碎)	157	153	213	232	
	※1 うち再資源化等	(木くず)	チップ化し発電燃料として売却	1,855	2,391	2,809	2,861
		(草・小枝)	土壌改良材製造用チップとして売却	3,759	3,810	4,762	5,296
		(樹木)	チップ化し発電燃料として売却	434	469	718	560
		(竹)	チップ化し発電燃料として売却	156	320	265	213
		(根株)	チップ化し発電燃料として売却	157	153	213	232
		再資源化等小計		6,361	7,143	8,767	9,162
中間処理合計			6,361	7,143	8,767	9,162	
最終処分	(がれき類)	(安定型最終処分場)	0	0	0	0	
最終処分量合計			0	0	0	0	
中間処理後の 産業廃棄物	最終処分		0	0	0	0	
	再資源化等		0	0	0	0	
			0	0	0	0	
		再資源化等量小計		0	0	0	0
	中間処理後処分量合計			0	0	0	0

※1 一般廃棄物の中間処理も含む

(9) 組織図



(10) 許可の概要

・土木・とび土工・舗装・水道布設工事業・解体工事業

福岡県知事許可 許可番号 (特-29) 第25068号
(2017年 8月 4日許可 有効年月日 2022年 8月 3日)

・建築工事業

福岡県知事許可 許可番号 (特-1) 第25068号
(2019年10月11日許可 有効年月日 2024年10月10日)

・産業廃棄物許可

産業廃棄物処理施設設置許可(2017年 3月 8日許可)

福岡県 許可番号 第608号

事業範囲 中間処理(破砕(移動式も含む)) 木くず

産業廃棄物処分業許可

福岡県 (2015年10月 7日許可 有効年月日 2022年10月 6日)

許可番号 第4020058381号

事業範囲 中間処理(破砕(移動式も含む)) 木くず

・一般廃棄物許可

一般廃棄物処理施設設置許可(2005年 8月26日許可)

福岡県 許可番号 第7号

一般廃棄物処分業許可

遠賀・中間地域広域行政事務組合

(2021年 6月 1日許可 有効年月日 2023年 5月31日)

遠賀中間地域広域行政事務組合 許可番号 第7号

事業範囲 中間処理(破砕(移動式も含む)) 剪定枝・伐採材・草・竹・根株

・産業廃棄物収集運搬許可

産業廃棄物収集運搬許可(2021年12月26日許可 有効年月日2026年12月25日)

福岡県 許可番号 第4000058381号

事業範囲 廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く)・金属くずガラスくず等
(自動車等破砕物を除く)・紙くず・木くず・がれき類
(廃プラスチック類、紙くず、木くず、ガラスくず等、がれき類に
ついては石綿含有産業廃棄物も含む)

・土壌改良材許可

肥料販売業務開始許可(2002年 7月19日許可)

福岡県 許可番号 第2160号

特殊肥料生産業者許可(2003年 9月17日許可)

福岡県 許可番号 第4920号

(11)施設等の状況

・運搬車両

2tダンプ 2台 4tダンプ 1台

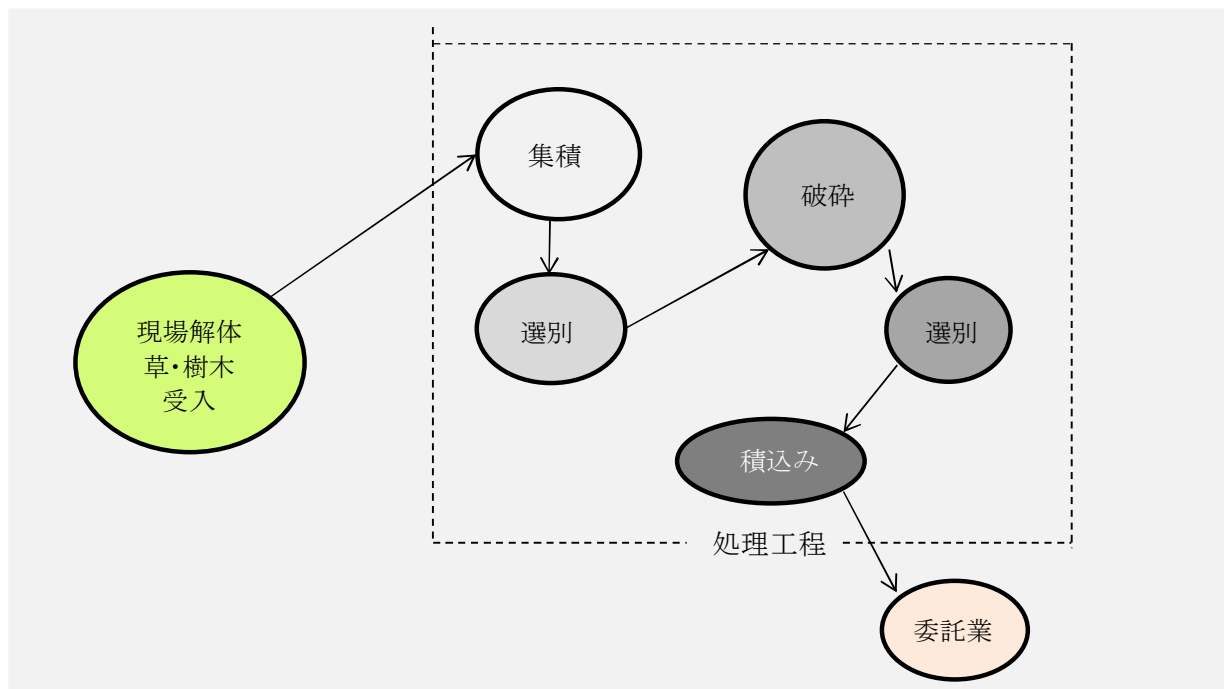
・建設機械

油圧ショベル 0.45m³級 3台 油圧ショベル 0.1m³級 1台

・中間処理施設(処理方式 破砕)

種 類	木くず	草	樹木	竹	根株
処理能力	破砕機	353t/日	1台		

<処理工程図>



(12) 料金の揭示方法

・建設工事業 土木工事業

個別見積による(見積料は無料)

・廃棄物処理料金

2021年6月1日現在

区 分	種 類	形状寸法	単位	料 金
産業廃棄物	木くず 解体材 型 枠 パレット	柱・梁	kg	12円
		タルキ		
		胴縁		
		バシ板		
		型枠		
	マクラ木		kg	25円
	電 柱			
一般廃棄物	焼け木		kg	20円
	草		kg	21円
	樹木の小枝	直径10cm未満	kg	15円
	樹木	直径10cm以上	kg	18円
	竹		kg	18円
	根株		kg	24円

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 対象組織

野坂建設株式会社 本 社 : 〒808-0144 北九州市若松区高須東三丁目6番9号

ゆめ環境 : 〒811-4342 福岡県遠賀郡遠賀町大字尾崎1712—45

水巻支店 : 〒807-0031 福岡県遠賀郡水巻町杣2丁目1番13号

(2) 対象活動

土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、建築工事業、
産業廃棄物・一般廃棄物処理業(中間処理)、土壌改良材生産・販売

3. 環境経営方針

環境経営方針

【環境理念】

私達は、自社の付加価値を発揮した事業活動を通じ、ステークホルダーに対して地球環境にやさしい暮らし方の提案を行い、未来のうつくしい地球環境を創造します。今後も、環境経営の継続的改善に努めます。

【行動指針】

1. やさしくうつくしい住環境を創る

- ・自然共生の住宅等インフラ整備
- ・木質資源の有効活用の研究開発
- ・持続可能な都市（環境）づくりの推進

2. やさしくうつくしい自然を守る

- ・事業活動に必要な水、エネルギー資源の省力化
- ・事業活動に伴い排出される廃棄物抑制・環境配慮型商品の採用
- ・関連する環境法規・条例及び当社が定めたその他の事項を厳守

3. やさしくうつくしい繋がりを深める

- ・環境啓発イベントの開催と地域ボランティアへの参画
- ・ステークホルダーへの感謝とさらなる連携強化
- ・自然災害など有事に対しての対応の円滑化

4. やさしくうつくしい職場を作る

- ・自らのいきがいとお客様への誇り、家族への感謝をもって仕事できる環境改善と整備
- ・人材教育、キャリア形成と適正な人事考課及び分業の仕組運用
- ・安全第一な職場形成に向けた労働安全衛生教育の強化

2012年 5月 7日 制定日

2020年 6月 1日 改訂日

野坂建設株式会社

代表取締役 野坂 輝和

4. 環境経営目標

- 環境経営目標は、環境負荷の調査結果より以下のような6項目(サブ項目を含めると計14項目)についてサイト区分し、単年度と中長期の目標を設定しました。なお、目標設定の基準は2020年度の実績データとしました。
- また、本業に係る目標としては、「地域における住環境の課題解決」を掲げ、建設事業部では住宅年間建築棟数を、環境事業部では自社の処分場(中間処理施設)での処理後排出量の増加を図ることとしました。

環境経営目標	サイト 区分	単位	基準年	単年度目標	中長期目標		
			2020年度 実績値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			2020.6～2021.5	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2023.6～2024.5	2024.6～2025.5
1. 二酸化炭素排出量の削減				(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
	破砕施設	kg-CO ₂ / 売上高(万円)	18.63	18.44	18.26	18.08	17.90
	全 体		11.320	11.207	11.095	10.984	10.874
			282,831	280,003	277,203	274,431	271,686
	①電気使用量の削減			(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
	事務所	kWh	21,770	21,552	21,337	21,123	20,912
	②ガソリン使用量の削減			(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
	事務所	L	8,092	8,011	7,931	7,852	7,773
	③軽油使用量の削減			(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
	破砕施設	L/ 搬入量(t)	7.75	7.67	7.60	7.52	7.44
全 体	L	97,176	96,204	95,242	94,290	93,347	
2. 廃棄物排出量の削減				(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg/人 (社員)	7.19	7.12	7.05	6.98	6.91
②産業廃棄物(建設廃棄物)の 再資源化率向上				(3%向上)	(6%向上)	(9%向上)	(12%向上)
現 場	%	86.4	89.0	91.6	94.2	96.8	
3. 水資源使用量の削減				(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
事務所	m ³ /t (搬入量)	0.146	0.145	0.143	0.142	0.140	
4. グリーン購入の推進 (事務用品等)				(維持)	(維持)	(維持)	(維持)
事務所	品目数	36	36	36	36	36	
5. 環境保全活動の実施				(維持)	(維持)	(維持)	(維持)
①地域ボランティア・地域コミュニティの活動参加	全 体	回	6	6	6	6	6
6. 地域における住環境の課題解決				(増加)	(増加)	(増加)	(増加)
①住宅年間建築棟数	事務所	棟数	1	7	8	9	10
②廃棄物中間処理後排出量の増加	破砕施設	t	7,880	8,370	8,860	9,350	9,840

備考) ・事務所、破砕施設の二酸化炭素排出量に使用した購入電力の排出係数は、0.644kg-CO₂/kWh(ミツロコヴェルセル2020年度調整後排出係数)を、建設現場は0.371kg-CO₂/kWh(九州電力2020年度調整後排出係数)を用いた。
 ・本社移転等外部環境の変化に伴い、基準年を2020年度に変更し、目標値も再設定。
 ・化学物質使用量削減の除外理由: 自社で購入・使用する化学物質がないため。
 ・サイト区分 事務所: 本社事務所・中間処理施設事務所・水巻支店 現場: 建築工事現場・土木工事現場
 破砕施設: ゆめ環境にある中間処理施設 全体: 事務所及び現場及び破砕施設
 ・()は基準年に対する増減率を示す。

5. 環境経営計画

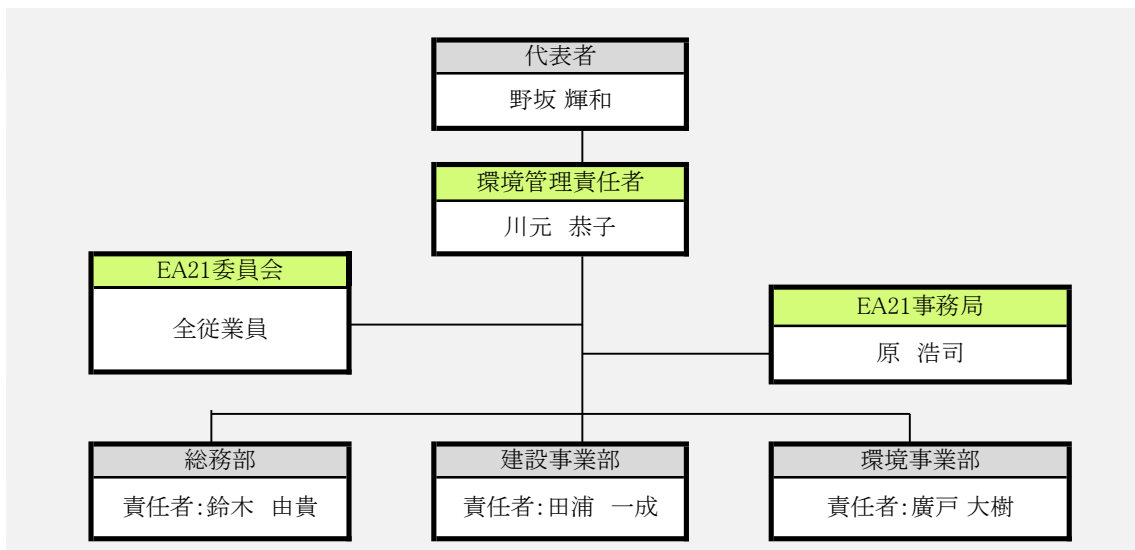
- ・環境経営目標を達成するため、本社及び福岡県内の現場における事業活動に対して、以下の環境活動を設定して全従業員で取り組みました。なお、各活動の実施状況や環境経営目標の達成状況については、3ヵ月に1度EA21委員会を開催して、現状の把握と評価を行ないました。

環境経営目標			サイト区分	環境活動事項	スケジュール
1	二酸化炭素排出量の削減	①電気の使用量の削減	現場 事務所	①未使用時の電気消灯の徹底	通年
				②設備電気不要時の負荷遮断	通年
				③設備のアイドリングストップ	通年
				④残業時間の削減検討	通年
				⑤昼休みの消灯	通年
				⑥太陽光発電設備の設置検討	通年
		②ガソリン使用量の削減 ③軽油使用量の削減	現場 事務所 破砕施設	①「エコドライブ10のすすめ」を車内に掲示	通年
				②アイドリングストップの徹底	通年
				③重機の定期検査	通年
				④破砕作業の効率的実施	通年
				⑤破砕機稼働後の清掃	通年
				⑥電気リフトの導入検討	通年
2	廃棄物排出量の削減	①一般廃棄物排出量の削減	事務所	①廃棄物の分別徹底	通年
				②リユース、リサイクル推進活動の展開	通年
				③排出量の秤量管理	通年
				④5S活動の実施	通年
		②産業廃棄物(建設廃棄物)の再資源化率向上	現場	①廃棄物管理を強化し排出実績を分析	通年
				②分別方法の見直し	通年
3	水資源使用量の削減		事務所	③リサイクル委託先の見直し	通年
				①重機や車両等計画的洗車実施	通年
				②破砕作業時の計画的散水	通年
4	グリーン購入の推進		事務所	③雨水の活用検討	通年
				①5S活動による備品の在庫管理徹底	通年
5	環境保全活動の実施	地域活動ボランティア 地域コミュニティの活動参加	全体	②購入時の調査検討	通年
				①対象月第1週目に各拠点で地域清掃実施	通年
				②地域開催のセミナー等での登壇	通年
				③地域開催のイベント等への参加	通年
				④地域団体やイベント等への協賛や寄付	通年
6	地域における住環境の課題解決	①住宅年間建築棟数	事務所	①田園モデルハウスへの来場活動実施	通年
				②定期イベントの開催	通年
				③SNS、HP等メディアでの情報発信	通年
				④新生活様式(ニューノーマル)に沿った住宅仕様等の提案・発信	通年
		②廃棄物中間処理後排出量の増加	破砕施設	①チラシ配布による集客活動実施	通年
				②既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・2021年度に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- ・なお、実施に当たっては、社内にエコアクション21を推進する次のような実施体制を構築して、全従業員が一丸となって取り組みました。

(1) エコアクション21実施体制



役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表者	1.環境管理責任者(EA21責任者)の任命 2.環境経営方針の策定 3.経営資源の準備 4.代表者による全体の評価と見直し 5.環境経営レポートの承認 6.環境経営目標及び環境経営計画の承認
環境管理責任者	1.EA21システムの確立、実施推進、維持管理 2.環境への負荷および取組への自己チェックの実施 3.環境経営目標及び環境経営計画の策定 4.環境経営レポートの作成 5.EA21に関する実績把握と報告 6.EA21環境経営マニュアルの作成
EA21委員会	1.環境経営目標及び環境経営計画の結果確認 2.EA21に関する審議 3.問題点が発生した場合は必要な是正処置を検討する
EA21事務局	1.環境管理責任者の補佐業務 2.環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3.環境文書及び記録の作成、管理 4.その他EA21に関する業務 5.教育、訓練計画の策定の実施
各部門	1.環境経営計画の実施 2.問題点の是正処置の実施 3.教育訓練の実施

(2) 2021年度に実施した環境への取組

- ・環境経営計画に基づき、以下の取組をSDGs（17のゴール）と紐付けて実施しました。



1. 二酸化炭素排出量の削減

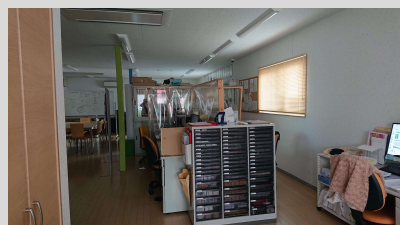
(1) 電気使用量の削減



- ・本社及びゆめ環境の事務所では、空調温度管理と昼休み、不在時・不在カ所の照明の消灯を徹底しました。
- ・また、残業時間の削減に取り組みました。



空調温度管理



昼休みの消灯

(2) 軽油、ガソリン使用量の削減



- ・アイドリング・ストップ等「エコドライブ10のすすめ」を車内に掲示し、燃料使用量の削減に努めました。
- ・重機定期点検を行い、破碎作業の効率的な実施と、破碎機稼働後の清掃を徹底しました。
- ・電気リフトの導入を検討しています。



「エコドライブ10のすすめ」車内掲示



重機の定期的点検実施



破碎機稼働後の清掃



電動リフトの検討

2. 廃棄物削減と適正処理

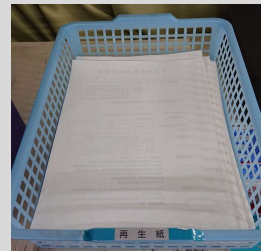
(1) 一般廃棄物排出量の削減



- ・廃棄物の分別を徹底しました。
- ・リユース・リサイクル推進運動に取り組みました。
- ・排出量の秤量管理を実施しています。



事務所ごみの分別排出

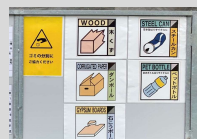


裏紙の再利用

(2) 産業廃棄物(建設廃棄物)の再資源化率向上



- ・廃棄物管理を強化し、排出実績を分析しています。
- ・分別方法の見直しを検討しています。
- ・リサイクル委託先の見直しを行っています。



建設廃棄物の分別排出



廃棄物の適正処理(産廃分別)

3. 水資源使用量の削減



- ・重機や車両等は計画的に洗車を行いました。
- ・破碎作業時の計画的散水に務めました。
- ・雨水の有効活用策を検討しています。



重機・車両の洗車



破碎作業での防塵散水

4. グリーン購入の推進



- ・5S活動による備品の在庫管理を徹底しました。
- ・事務用品等を購入する際にはグリーン購入対象商品を優先的に選択しました。



5Sによる備品管理の徹底



グリーン購入の実施

5. 環境保全活動の実施



(1) 地域ボランティア・地域コミュニティの活動参加

- ・毎月第1週目に各拠点で地域清掃活動に参加しています。
- ・地域開催のセミナー等で従業員が講師として登壇しています。
- ・地域開催のイベント等への参加や協賛・寄付を行いました。



地域清掃活動への参加



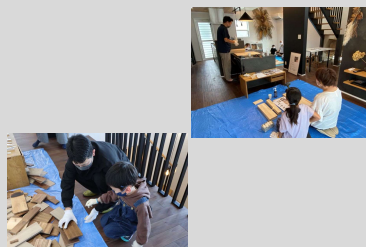
募金活動

6. 地域における住環境の課題解決



(1) 住宅年間建築棟数

- ・田園モデルハウスへの来場活動実施しました。
- ・SNS、HP等メディアで情報を発信しています。

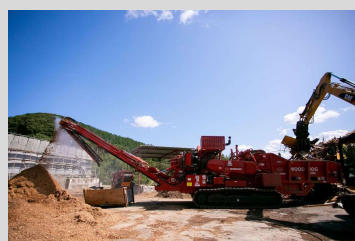


モデルハウスでの来場活動

(2) 廃棄物中間処理後排出量の増加



- ・既存顧客や新規見込顧客への訪問営業を実施しました。



木くず破砕処理施設(破砕にてチップ化)

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の計画

(1) 環境経営目標の実績

- ・2021年度における環境経営目標の達成状況は、以下のとおりです。
- ・設定した6項目14目標のうち、4項目10目標については目標を達成することができました。
- ・最大の環境負荷である二酸化炭素排出量は総量、原単位ともに目標を達成しましたが、排出源となっている電気とガソリン使用量は僅かですが目標を上回りました。要因としては、電気は昨年同様、コロナ感染対策として、常に換気扇やエアコンを稼働させていた事が考えられます。ガソリンについては、遠方の現場が増えた事がその要因と考えられます。なお、破碎施設に関しては、計画的な破碎作業を徹底した事が軽油使用量の大幅な削減に繋がり、目標を達成することができました。
- ・産業廃棄物の再資源化率向上については、石膏ボード等再資源化率の低い廃棄物が出た事もあり、今回は目標未達となりました。
- ・本業目標とした「6.地域における住環境の課題解決」のうち①住宅年間建築棟数は目標未達となりましたが、これは昨年同様、コロナウイルスの影響により、住宅事業部の営業活動等が積極的にできなかった事がその要因と考えています。

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年 2020年度 実績値 (2020.6～2021.5)	2021年度 (2021.6～2022.5)		目標 達成率	判定	
				目標値	実績値			
1. 二酸化炭素排出量の削減	破碎施設	kg-CO ₂ /売上高(万円)	18.63	18.44	17.31	107%	○	
			11.320	11.207	6.75	166%	◎	
		kg-CO ₂	282,831	280,003	273,689	102%	○	
	①電気使用量の削減	事務所	kWh	21,770	21,552	24,004	90%	△
	②ガソリン使用量の削減	事務所	L	8,092	8,011	9,186	87%	△
	③軽油使用量の削減	破碎施設	L／t (搬入出量)	7.75	7.67	6.90	111%	○
L			97,176	96,204	91,830	105%	○	
2. 廃棄物排出量の削減								
①一般廃棄物の削減	事務所	kg／人 (社員)	7.19	7.12	6.25	114%	○	
②産業廃棄物(建設廃棄物)の 再資源化率向上	現 場	%	86.4	89.0	84.0	94%	△	
3. 水資源使用量の削減	事務所	m ³ ／t (搬入量)	0.146	0.145	0.143	101%	○	
4. グリーン購入の推進 (事務用品等)	事務所	品目数	36	36	42	117%	○	
5. 環境保全活動の実施								
①地域ボランティア・地域コミュニティの活動参加	全 体	回	6	6	8	133%	◎	
6. 地域における住環境の課題解決								
①住宅年間建築棟数	事務所	棟数	1	7	2	29%	×	
②廃棄物中間処理後排出量の増加	破碎施設	t	7,880	8,370	9,740	116%	○	

備考) ・目標達成率の計算 削減目標の場合: 目標÷実績×100 増加目標の場合: 実績÷目標×100

・判定区分 ◎: 目標達成率120%以上 ○: 100～120% △: 80～100% ×: 80%以下 - : 判定不可

・サイト区分 事務所: 本社事務所・ゆめ環境事務所・水巻支店 現場: 建築工事現場・土木工事現場 破碎施設: ゆめ環境にある中間処理施設
全体: 事務所及び現場及び破碎施設

(2) 環境経営計画の取組結果とその評価

1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	未使用時の電気消灯の徹底	○	○	○	○	(現状) ・コロナ感染対策の換気での難しさもあるが、削減可能なところは積極的に削減していく。 (今後) ・今後もこの取組を継続していく。
②	設備電気不要時の負荷遮断	○	○	○	○	
③	設備のアイドリングストップ	△	△	△	○	
④	残業時間の削減検討	△	×	×	△	
⑤	昼休みの消灯	○	○	○	○	
⑥	太陽光発電設備の設置検討	—	—	○	○	

備考) 取組状況判定区分 ○: (定着)よく実行されている ○: 実行されている △: 一部実行されている ×: 実行されていない —: 判定不可

(2) ガソリン・軽油使用量の削減

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	「エコドライブ10のすすめ」を車内に掲示	○	○	○	○	(現状) ・破碎作業の効率化を行い軽油使用量の削減に努めている。また、車両は可能な限りエコドライブを実施している。 (今後) ・今後もこの取組を継続していく。
②	アイドリングストップの徹底	△	△	○	○	
③	重機の定期検査	○	○	○	○	
④	破碎作業の効率的実施	○	○	△	△	
⑤	破碎機の清掃	○	○	○	○	
⑥	電気リフトの導入検討	—	—	—	—	

2. 廃棄物排出量の削減

(1) 一般廃棄物の削減(①～④)、(2) 産業廃棄物(建設廃棄物)の再資源化率向上(⑤～⑦)

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	廃棄物の分別徹底	○	○	○	○	(現状) ・現場での廃棄物の分別の強化をしている。また、古紙回収業者には依頼し、紙類の廃棄を減らしている。 (今後) ・今後もこの取組を継続していく。また、協力業者、下請け業者にも分別意識の周知徹底を図っていく。
②	リユース、リサイクル推進活動の展開	—	—	—	—	
③	排出量の秤量管理	○	○	○	○	
④	5S活動の実施	—	○	—	—	
⑤	廃棄物管理を強化し排出実績を分析	—	—	—	—	
⑥	現場分別の強化	○	○	○	○	
⑦	リサイクル委託先の見直し	△	△	△	△	

3.水資源使用量の削減

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	重機や車両等の計画的洗車実施	△	△	○	○	(現状) ・個々人が節水を心掛けた。 ・破砕時の埃の飛散防止、草チップの発酵促進の為の水使用量が増加している。 (今後) ・作業上散水は必要不可欠なので、今後も取組を継続していく。
②	破砕作業時の計画的散水	○	○	○	○	
③	雨水の活用検討	—	—	—	—	

4.グリーン購入の推進

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	5S活動による備品の在庫管理徹底	○	○	○	○	(現状) ・新規購入の際は、対象商品であるかチェックし、目標を達成している。 (今後) ・今後もこの取組を継続していく。
②	購入時の調査検討	○	○	○	○	

5.環境保全活動の実施

(1) 地域ボランティア・地域コミュニティの活動参加

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	対象月第1週目に各拠点で地域清掃実施	○	△	△	△	(現状) ・コロナ禍の中でのできることを行い、地域に貢献できるように活動をしている。 (今後) ・引き続きコロナ禍でできることを積極的に行っていく。
②	地域開催のセミナー等での登壇	—	—	○	○	
③	地域開催のイベント等への参加	—	○	○	—	
④	地域団体やイベント等への協賛や寄付	—	—	—	○	

6.地域における住環境の課題解決

(1) 住宅年間建築棟数(①～④)、(2)廃棄物中間処理後排出量の増加(⑤～⑥)

No	環境活動項目	取組結果				評価
		6-8	9-11	12-2	3-5	
①	田園モデルハウスへの来場活動実施	○	△	○	△	(現状) ・感染対策を確実にし、少人数での住宅イベント等を行った。 (今後) ・できる事をこれからも引き続き継続していく。
②	定期イベントの開催	○	○	○	○	
③	SNS・HP等メディアでの情報発信	○	○	○	○	
④	新生活様式に沿った住宅仕様等の提案・発信	○	○	○	○	
⑤	チラシ配布による集客活動実施	—	—	—	—	
⑥	既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施	△	△	—	—	

(3) 次年度の環境経営目標、環境経営計画

1) 環境経営目標

- ・本年度の環境経営目標達成状況は、一部の項目を除いて概ね良好であったため、次年度目標は中長期目標の2022年度を適用することとします。

環境経営目標	サイト 区分	単位	基準年	単年度目標	中長期目標		
			2020年度 実績値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			(2020.6～2021.5)	(2021.6～2022.5)	(2022.6～2023.5)	(2023.6～2024.5)	(2024.6～2025.5)
1. 二酸化炭素排出量の削減				(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
	破砕施設 全 体	kg-CO ₂ / 売上高(万円)	18.63	18.44	18.26	18.08	17.90
			11.320	11.207	11.095	10.984	10.874
			282,831	280,003	277,203	274,431	271,686
	①電気使用量の削減			(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
		事務所	kWh	21,770	21,552	21,337	21,123
	②ガソリン使用量の削減			(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
		事務所	L	8,092	8,011	7,931	7,852
	③軽油使用量の削減			(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
		破砕施設	L/ 搬入量 (t)	7.75	7.67	7.60	7.52
全 体		L	97,176	96,204	95,242	94,290	93,347
2. 廃棄物排出量の削減				(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg／人 (社員)	7.19	7.12	7.05	6.98	6.91
	②産業廃棄物(建設廃棄物)の 再資源化率向上			(3%向上)	(6%向上)	(9%向上)	(12%向上)
		現 場	%	86.4	89.0	91.6	94.2
3. 水資源使用量の削減				(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
	事務所	m ³ /t (搬入量)	0.146	0.145	0.143	0.142	0.140
4. グリーン購入の推進 (事務用品等)				(維持)	(維持)	(維持)	(維持)
	事務所	品目数	36	36	36	36	36
5. 環境保全活動の実施				(維持)	(維持)	(維持)	(維持)
①地域ボランティア・地域コミュニティの活動参加	全 体	回	6	6	6	6	6
6. 地域における住環境の課題解決				(増加)	(増加)	(増加)	(増加)
①住宅年間建築棟数	事務所	棟数	1	7	8	9	10
②廃棄物中間処理後排出量の増加	破砕施設	t	7,880	8,370	8,860	9,350	9,840

備考) ・事務所、破砕施設の二酸化炭素排出量に使用した購入電力の排出係数は、0.644kg-CO₂/kWh(ミツロコヴェssel2020年度調整後排出係数)を、建設現場は0.371kg-CO₂/kWh(九州電力2020年度調整後排出係数)を用いた。
・本社移転等外部環境の変化に伴い、基準年を2020年度に変更し、目標値も再設定。
・化学物質使用量削減の除外理由: 自社で購入・使用する化学物質がないため。
・サイト区分 事務所: 本社事務所・中間処理施設事務所・水巻支店 現場: 建築工事現場・土木工事現場
破砕施設: ゆめ環境にある中間処理施設 全体: 事務所及び現場及び破砕施設
・()は基準年に対する増減率を示す。

2)環境経営計画

- ・次年度の環境経営計画は以下のとおりであり、取組メニューは継続しますが、本年度取組不良であった項目(残業時間の削減検討、太陽光発電設備の設置検討、電気リフトの導入検討、雨水の活用検討、既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施等表中ゴシック体表示項目)は重点取組として位置づけ、取組を徹底することとします。

環境経営目標			サイト 区分	環境活動事項	スケジュール
1	二酸化炭素排出量の削減	①電気の使用量の削減	現場 事務所	①未使用時の電気消灯の徹底	通年
				②設備電気不要時の負荷遮断	通年
				③設備のアイドリングストップ	通年
				④ 残業時間の削減検討	通年
				⑤昼休みの消灯	通年
				⑥ 太陽光発電設備の設置検討	通年
	②ガソリン使用量の削減 ③軽油使用量の削減	現場 事務所 破砕施設	現場 事務所 破砕施設	①「エコドライブ10のすすめ」を車内に掲示	通年
				②アイドリングストップの徹底	通年
				③重機の定期検査	通年
				④破砕作業の効率的実施	通年
				⑤破砕機稼働後の清掃	通年
				⑥ 電気リフトの導入検討	通年
2	廃棄物排出量の削減	①一般廃棄物排出量の削減	事務所	①廃棄物の分別徹底	通年
				② リユース、リサイクル推進活動の展開	通年
				③排出量の秤量管理	通年
				④ 5S活動の実施	通年
		②産業廃棄物(建設廃棄物)の再資源化率向上	現場	① 廃棄物管理を強化し排出実績を分析	通年
				②分別方法の見直し	通年
3	水資源使用量の削減	事務所	事務所	③ 雨水の活用検討	通年
				①重機や車両等計画的洗車実施	通年
				②破砕作業時の計画的散水	通年
4	グリーン購入の推進	事務所	事務所	①5S活動による備品の在庫管理徹底	通年
				②購入時の調査検討	通年
5	環境保全活動の実施	地域活動ボランティア 地域コミュニティの活動参加	全体	①対象月第1週目に各拠点で地域清掃実施	通年
				②地域開催のセミナー等での登壇	通年
				③地域開催のイベント等への参加	通年
				④地域団体やイベント等への協賛や寄付	通年
6	地域における住環境の課題解決	①住宅年間建築棟数	事務所	①田園モデルハウスへの来場活動実施	通年
				②定期イベントの開催	通年
				③SNS、HP等メディアでの情報発信	通年
				④新生活様式(ニューノーマル)に沿った住宅仕様等の提案・発信	通年
		②廃棄物中間処理後排出量の増加	破砕施設	① チラシ配布による集客活動実施	通年
				② 既存顧客や新規見込顧客への訪問営業実施	通年

8. 環境関連法規の遵守状況・違反と訴訟等の有無

- ・2021年度の事業活動については、環境関連法規を適正に遵守していることを確認し、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関からの違反の指摘、利害関係者からのクレームや訴訟も過去3年間ありませんでした。

環境関連法規等一覧

- ・浄化槽法
- ・騒音規制法
- ・振動規制法
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
(廃棄物処理法)
- ・資源の有効な利用の促進に関する法律
(リサイクル法)
- ・特定家庭用機器再商品化等の促進に関する法律
(家電リサイクル法)
- ・使用済自動車の再資源化等に関する法律
(自動車リサイクル法)
- ・建設リサイクル法
- ・計量法
- ・オフロード法
- ・国等による環境物品の調達の推進等に関する法律
(グリーン購入法)
- ・地球温暖化対策の推進に関する法律
(温対法)

自治体の環境関連条例

- ・生活環境保全条例
- ・森林環境税条例

その他の環境連規制

- ・福岡県北九州土木事務所

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 取組状況の全体評価

- ・2021度の取組状況は全体的に良好な結果で、決められた取組は概ね適切に実施され、最大の環境負荷である二酸化炭素排出量も目標を達成できています。
- ・委員会運営がスムーズにでき、遅れや漏れなく3カ月に一度見直し改善ができました。結果、昨年度と比較しても全体的により良い結果に繋がりました。大きく目標未達の住宅新築案件については、自社のブランディングがほぼ完成し、SNSを通じての集客活動に大きくシフトした一年となりました。今後は4月に再取得した宅建業務を活用した建売を新たな軸に加えて、私達の提案するライフスタイルをユーザーに発信できればと考えています。

(2) 次年度計画の見直し結果と今後の課題

- ・次年度計画のうち環境経営目標については、今回の運用結果で特に問題が見られなかったため、当初の中長期目標に従い、2022年度目標をそのまま適用することとしました。
- ・環境経営計画については、本年度の取組で不良項目が見られましたので、取組メニューは変えず、これらを重点項目と位置づけて全社員が一丸となって取組を推進することとしました。
- ・当社の今後の課題は以下のとおりであり、検討内容が具体化した時点で、エコアクション21の計画に取り込んで推進していく予定です。

<今後の課題>

- ①使用燃料について 環境負荷の少ない軽油代替燃料の検討
- ②燃料チップの運送業務の内製化(年間軽油24,700L燃料使用量の増加予測)
- ③DXによる業務の効率化(特に社員移動時間の削減や顧客満足の上昇)
- ④建設事業の黒字化
- ⑤一般廃棄物の受入れ体制強化と品目の追加